【おうち英語】丁寧に進めたい
「読み<Reading>」「書き<Writing>」へのステップ

【おうち英語】は、人が生まれながらに持つ言語習得能力を生かし、
日本語だけでなく英語も身に着けていく手法であるため、
子どもの自然な成長を待つという
【時間を掛ける】【時間に身を委ねる】
というところがあるかと思います。

つまりおうち英語では
「三ヶ月で英語がペラペラに♪」
などというよく英語産業にある
商業的な促成栽培的なことは
叶わぬ手法であるため、
ゆっくりたっぷりと時間を掛ける必要があるのですね。

子どもが幼いうちは時間にも心にもゆとりがあったり、
目に見える成果を焦らないため、
ゆっくり丁寧に言語習得のステップを進めることができるように思いますが、
読み書きの段階に差し掛かると
急に乱暴な進め方になってしまう場合があったりします。

これまでの note で、
時に自分たちの英語学習の体験を
おうち英語の指針に据えてしまい、
人間が本来持つ言語習得能力を生かすことが目的の
おうち英語に語学学習という勉強の視点を
持ち込んでしまうことを危惧する意見を述べてきましたが、
実は読み書きに関してはわが家のおうち英語においても
非常に乱暴な進め方をしてしまったと
今更ながらですが子どもたちに申し訳ない思いを抱いています。

乱暴な進め方になってしまった原因は、
結局は私が当時無知であったということに尽きます。
そういう意味で、私が後悔している点などを
懺悔的に今回は語ってみたいと思います。

©2023 Englishbuds, MommyKayo

無知であったことを語るのは恥ずかしくもありますが、
日本の英語学習が万人に優しいものになっていってもらいたいと願っているため、
恥を忍んで語らせていただきたいと思います。
よろしければお付き合いください♪

目次

■勝手に読めるように、書けるようになると思い込んでいた・・・
■言語習得を考慮した進め方
■無理矢理読ませることはできない
■読めるから、書けるわけではない

■勝手に読めるように、書けるようになると思い込んでいた・・・

わが家では下の子が小学校5年生になるまで
英語の読み書きには結構無頓着でした。
本格的な書きは中学校に入ってからでいいやと思っていた節があり、
それよりも学校英語の影響を受けない時期に、
スピーキングやリスニングの方を伸ばしておきたいなと思っていて・・・。
読みに関しては、小さなころから多読で
たくさんの洋書絵本を読み聞かせをしてきていたので、
「あれだけの量に触れていれば
否が応でも自然に読めるようになるでしょ!」
と高をくくっていたところがありました。

事実、上の娘は読みに関して早熟なタイプで、
かなり早い時期から日本語も英語も教えなくても読めるタイプであったため、
当然下の子もそうだろうと思い込んでいました。

しかし、小5の時に英検受検を検討した際に、
"the"も"a"も1語も読めないという事実を突きつけられ愕然としました。

よくよく反省してみれば、
上の子にも下の子にも英語の読み書きに関してはほぼ放置で
何もフォローしてあげていなかったのです。

©2023 Englishbuds, MommyKayo

なぜにそのような対応になってしまったのかと言えば、
やはり自分自身の英語学習の経験が基になってしまっていたな･･･と。

大学で英語を専攻し、卒業後に英語科教員となった私ですが、
人生のどこでもフォニックスなど英語の読み書きについて
しっかりと学んだ経験がなく、
アルファベットは数回の練習で書けるようにするもの、
紛らわしい単語は根性で何度も書いて体で覚えるのが
当たり前だと思っていました。これこそ常識だと。

ですので、わが子もそうすればいいと思っていたのですね。
そうすればいいと考えてすらいなかったです。
そうなるべくしてそうなる！これぞ自然の摂理！みたいな(^^;

■言語習得を考慮した進め方
しかし、私が自然の摂理と信じて疑わなかった読み書きのステップは、
自然の摂理でもなんでもなく、
ただの学校英語の乱暴さの象徴だと今は思います。
知らないとは怖いことだなとつくづく思います･･･💦

子どもが言語を身に着けていくステップを冷静に考えてみると、

リスニング→スピーキング→リーディング→ライティング

という順になるかと思います。

おうち英語では、
子どもが「リスニング」の力を培っている時期は
比較的ゆったりと心穏やかに、
時間も十分に掛けて取り組むことができることが多いのですが、
局面局面で目に見える成果を求めすぎて
「時間に身を委ねる」とか「子どもの成長を待つ」
という視点が怪しくなってきてしまうこともありますよね。

スピーキングでも目に見える結果が出てこず、
焦ることもありますが、
それに関してはこれまで複数回お話してきたため、今回は話題から外します。

©2023 Englishbuds, MommyKayo

「這えば立て、立てば歩けよ」如く、
「聞いてわかるなら話せ。話せるなら読めよ、書け。」
というのが親心なのか、
ある程度話せるようになってくると、
次は読み書きのステップに進んでいくことを期待します。

もちろん母語である日本語でも、
ひらがなの練習、カタカナの練習と書き方を家でフォローするように、
英語もアルファベットの書き方の練習ぐらいはフォローされているかと思います。

中学校の英語の授業では
アルファベットの書き方指導に1時間も掛けられるかどうかということを思えば、
幼児期から過程でアルファベットの書き方のフォローがなされるということは
十分に丁寧であると言えますが、
残念ながら英語の場合、アルファベットが書けるようになるだけでは、
英語を読んだり書いたりすることができないのですよね。

一つ一つの音素と文字が一致している日本語に対して、
英語は音素と文字が一致していません。

フォニックスというルールをここで学ぶことが必要になってくるのです。

子どもの中には、
自らフォニックスのルールを見出すタイプの子も存在しているため、
フォニックス学習がマストではないと思われる方もいらっしゃるかもしれません。

また某有名幼児英語教材に
フォニックスが含まれていないことから
「フォニックス学習不要論」がまことしやかに信じられているかもしれません。

実は私もそうでした(^^;

上の子が勝手に読み書きできるタイプだったり、
某教材の販売時にそのように説明されたこともあり、
読み書きのルールを見出していくのも人間に生まれつき備わった能力なのだ
と思ってしまっていました。

©2023 Englishbuds, MommyKayo

でも人間は凸凹。
得意なこともあれば不得意なこともありで
ロボットのように一律ではありません。

息子のケースがそれを教えてくれました。

不得意な場合は、適切にフォローしてあげる必要があるだけですね。

フォニックスを適切に学習することで
子どもの読み書きの負担を軽減してあげられることが多くあると
今は強く思うようになりました。

「そうか！読み書きを進めるためには
フォニックスを学習させればいいのか！」と思われた方、、、
残念ながら実はそんなに単純な話でもないかと・・・。

■無理矢理読ませることはできない

子どもが文字、文章を読み始める時期は
個人差がとても大きいものです。

わが家の子どもたちのケースをしばしばお話ししていますが、
同じ親から生まれ、同じように育てたつもりでも、
娘は2歳になるかならないかの頃に一人でに勝手に読めるようになり、
下の息子は小さなころから文字への関心が薄く、
英語に至っては小5になるまで全く読めなかったという有様でした。
（息子の場合、ディスレクシア傾向があったわけですが・・・）

読み書きに限らず、
何事も【興味・関心】というものが最大のモチベーションとなるわけですが、
この【興味・関心】というものを差し置いて、
無理やり子どもに英語を読ませようとしてもなかなか子どもは受け入れてくれません。

英語のことわざに
"You can take a horse to the water, but you can't make him drink."
「馬を水飲み場に連れて行くことはできても、馬に水を飲ませることはできない」
というものがありますが、
英語においては読むための手段として有効と言われる

©2023 Englishbuds, MommyKayo

「フォニックス」を頑張って子どもに学ばせたとしても、
「フォニックス」はあくまで道具であるため、
子どもにその道具を使おうという意欲が育っていなければ
せっかくの道具も宝の持ち腐れ状態になってしまいます。

わが家の息子は小5まで
"the"や"drink"でさえも読めない状態だったのですが、
それは息子が音韻認識が弱いタイプで、
自分で文字と音の間にある規則性・ルールを
自分で見出すことができなかったというだけで、
「読みたくない子」ではなかったのだと、
ディスレクシアを克服するためにフォニックスを学習してから気付きました。

読むための道具としてフォニックスを手に入れた息子は、
最初はたどたどしくもそれなりに自分で読もうとするようになったのですね。

もちろん息子が自ら読んでいる英語は、
ゲームの解説サイトだったりして、内容に対する賛否はあるでしょうが、
それでも「読みことが嫌い」なわけではなく、
必要があれば読むことは厭わない、頑張って読もうという感じに
育ってくれたことは有難いことだなぁと思っています。

子どもたちが小さかった頃、
おうち英語だけでなく、
子育てで私がちょっと頑張ったかなぁと思うことがあるとすれば、
それは日本語の絵本と洋書絵本の読み聞かせぐらいのものですが、
毎日時間を問わず、子どもから求められるままに
何十冊も子どもと絵本の時間を楽しんだことは良い思い出です。

読み聞かせをしている当時は、
子どもとの絵本の時間を楽しみつつも、
「これだけで良いのだろうか・・・」と思ったことも事実です。

しかし、その当時通っていた多読教室の先生が
「読み聞かせをしたのに何も残らないなんてことはない。
言語学習では確かな表現力・語彙力の糧になる。
でも仮に何も言語面で残らなかったとしても、
ママの膝の上の温かさや本を一緒に楽しんだ思い出は

©2023 Englishbuds, MommyKayo

子どもの中から一生消えることはないのだから、
それで十分なのではないか。」ということを言っておられ、
その通りだと思って続けてきました。

息子においては、私が息子が読み書きにおいて
困難を持っていることに気付けなかったせいなのですが、
長く読み書きに興味を示さなかったこともあり、
「あぁ、この子は読み聞かせから
言語的なものをあまり吸収しなかったなぁ。。。」
と思ってしまっていたのですが、
今思えば、あの頃親子で読みを楽しみ時間を共有したことで、
息子の読むことへの心理的ハードルを下げることができたのであれば、
あの時間は無駄ではなかったとも思うのです。

読むという姿勢も一朝一夕には養えないのだと
息子のケースから思ったりします。

丁寧に時間を掛けたことが、
ずいぶん後から目に見える形で出てくることもあるのだなぁと。

無駄なことなんてないんだなとも思います。

■読めるから、書けるわけではない
次は書きのステップについてです。

読みにおいて自力でフォニックスのルールを見出す能力を持っている子でも
書きのステップでその能力を生かすことはできないことが多いように思います。

ある程度のところまでは対応していくことができるようですが、
自ら見出したルールというのは時にアバウトで独りよがりなこともあります。

そのため正確性や再現性に欠けてしまうことも・・・。

日本の学校英語では、フォニックスを教える機会を持たず、
人は皆自分でフォニックスのルールを見いだせることを前提としています。
そして、自ら見出したルールに正確性や再現性を持たせるために、
「単語は書いて覚えましょう」というクラシックな根性論が

©2023 Englishbuds, MommyKayo

持ち出されることが一般的です。

私が子どものころからこの指導法は変わっておらず、
私もノートいっぱいに写経のように同じ単語を書きなぐったものです。

そしてン十年経ったわが子の世代にもその伝統は脈々と受け継がれていましたね・・・。

フォニックスを学ぶ機会を持たなかった娘は、
割と従順にこの伝統を内申点を稼ぐための一つの手段として
受け入れるところがあったのですが、
フォニックスを学んでしまった息子にはこの根性論が
どうにも無駄に感じられてしまったらしく、
かなり雑に取り組み内申点を下げてしまっているという・・・(-_-)

わが家の息子が損していることを考えると、
伝統を受け入れないのはデメリットになるのかとも思いますが、
英語の書きについて純粋に考えるのであれば、
根性による伝統を守ることにはなんのメリットもないのではないかと思います。

その手法は既知の単語の正確性を高めることには多少有効でしょうが、
その規則の再現性までも確立することができないからです。

結局、知らない単語を正確に読み書き能力までは育たない、
暗記をベースとしたものになってしまうかと思うのです。

今、私は Jolly Phonics を多くのお子さんに
指導させてもらっていますが、
本当のフォニックスの強みは単語を書く時に発揮されると思って指導しています。

読みの部分はなんとなくでも結構読めてしまうものなのです。

ただ書きの部分では一切誤魔化すことができませんので
正確なフォニックスの力が問われます。

またまだまだ今後も読み書き中心のペーパーテストが主流になっていくでしょうから、
書けないことには得点することができません。

©2023 Englishbuds, MommyKayo

私が担当させてもらったお子さんには
書けないことで不利益を被ってほしくないので
その点はしっかり指導させていただきたいなぁと思っているところです。

おうち英語において、時々、
すでに自力読みができるお子さんが書きのステップに進まれる際に、
実際に書かせてみたところ思った以上に単語が書けずに焦る💦
というパターンが多く見受けられます。

特に最近は英検に3級からライティングが導入されたこともあり、
書きも低年齢化が進んでいるような気がします。

フォニックスのルールが未確立な子どもに
「正確に書きなさい」と要求すること、
書けない単語をノート一杯に書かせて
「ちゃんと覚えなさい」ということ、
どちらも学校英語の乱暴さが生み出した
英語学習の王道と信じられている邪道と思えてなりません。。。

私自身、わが家の子どもが小さいころは無知で、
邪道を正道と信じてしまっていたところあるので
全く偉そうには言えないのですが、
フォニックスのことをしっかりと学んだ今、
聞く、話すの段階までは母国語方式で無理のない言語習得を目指してきたのに、
読み書きの段階になった途端、
突然、不自然な方法で子どもたちに負担を掛けてしまうことがあっては
残念だなぁと思い、今回の note を書かせていただきました。

フォニックスはネイティブの子どもたちも学びます。
正しい読み書きに必要だからですよね。
根性では対処していません。

こう考えていくと、学校英語に倣っていいことなんて
一つもないような気がしてしまいますね(^^;

私たち親が英語を学んだ学校英語の呪縛から
完全に解放されないと健全なおうち英語はできないのかも・・・とまで思ってしまう今日この頃です。

©2023 Englishbuds, MommyKayo